

## 会員の声

### 会員の声へのお答え

サナダ 真田	トモヨ 知世*	タグチ 田口	アキヒコ 晶彦*	カワセゼンイチロウ 川瀬善一郎*	コダイラ 小平	ノリヒサ 紀久 <sup>2*</sup>
クノ 久野	ヨシユキ 芳之 <sup>2*</sup>	タナカ 田中	タカシ 貴 <sup>2*</sup>	ヤマナカ 山中	ナウタ 菜詩 <sup>2*</sup>	ウメムラ 梅村
スズキ 鈴木	コウタ 孝太 <sup>3*</sup>					トモヒロ <sup>3*</sup> 朋弘

日本公衆衛生雑誌 2021; 68(7): 511. doi:10.11236/jph.21-020

本誌に掲載して頂いた「気象と小児ぜん息患者数の関連調査：気象データとレセプトデータを活用した「Health Weather」の取り組み」に対して、コメントを頂きましたので、お答え申し上げます。

モデルの妥当性については、考察に「予測モデルの評価として、決定係数と平均パーセント誤差を用いたが、評価指標の妥当性についても、検討が必要である」と述べたように、今後の課題として考えております。また、本論文は、原著ではなく、公衆衛生上の資料として掲載して頂きました。「本研究では、NDB オープンデータとは異なり、非公開のレセプトデータを使用した」と述べたように、結果の公開に限界があることから、公衆衛生上の資料という立場で、Health Weather の取り組みに関する事例を踏まえた報告としており、分析結果を追求することを目的としておりません。しかしながら、ご指摘のとおり、カレンダー情報は患者数の変動に大きく影響を与える要素と認識しておりますため、今後精緻なモデリングの際には十分に検討したいと思えます。

北海道と東北を一つにした地域区分については、「レセプトデータの数が少ないという理由」からであり、データの数が分析に耐えうる数を確保できるならば投稿者のご指摘のとおり、気象特性が均質な気候区分ごとに分析すべきと考えます。地域を細分化した分析には、サンプルデータの更なる収集が課題でもあります。

降水については、投稿者のご指摘のとおり、患者の行動に与える影響は大きいと考えられます。本研究では、当初は気温の変化に着目して調査を開始した経緯があり、研究発表をしていく中で、気温だけではなく湿度や気圧も加味した分析をしていくべきとの指摘をいただきました。このため、本資料では、気温、湿度、気圧を加味した調査となっております。今後、降水の有無、降水量、その他の気象要素との関係性についても分析し、気象条件と小児ぜん息患者数の関連性について、より詳細に調べていきたいと思えます。

Health Weather は、気象データとレセプトデータを活用して、気象病における気象がヒトに及ぼす影響を把握し、そこから事前のリスク回避を実現することを目的とした産学連携事業の総称であり、一般財団法人日本気象協会および株式会社JMDC の登録商標（登録第5914432）である。なお、本研究の著者のうち、真田知世、田口晶彦、川瀬善一郎は一般財団法人日本気象協会に所属しており、小平紀久、久野芳之、田中貴、山中菜詩は株式会社JMDC に所属している。各社とも自社の業務の一環として人件費等を負担しており、研究費の助成等はない。

{	受付	2021. 3.10
	採用	2021. 4.27
	J-STAGE早期公開	2021. 6.18

\* 一般財団法人日本気象協会

<sup>2\*</sup> 株式会社JMDC

<sup>3\*</sup> 愛知医科大学医学部衛生学講座

責任著者連絡先：〒542-0081 大阪市中央区南船場  
2-3-2 南船場ハートビル16階  
一般財団法人日本気象協会関西支社メディア・コン  
シューマ事業課 真田知世